

# 久留米市地場企業景況調査レポート(平成20年10月～12月期調査分)

## ＜調査目的＞

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

## ＜調査対象＞

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

## ＜調査要領＞

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

## ＜DI値とは＞

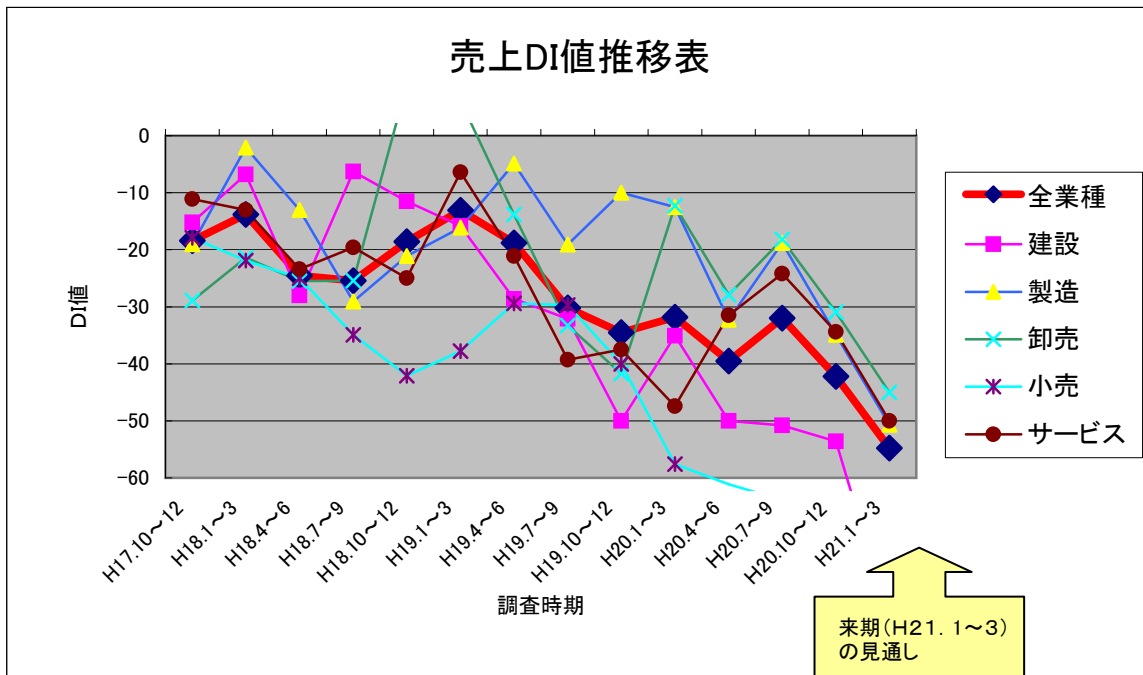
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

## ＜平成20年10月～12月期調査分回収結果＞

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	293	48.8%
建設業	120	59	49.2%
製造業	120	70	58.3%
卸売業	120	62	51.7%
小売業	120	40	33.3%
サービス業	120	62	51.7%

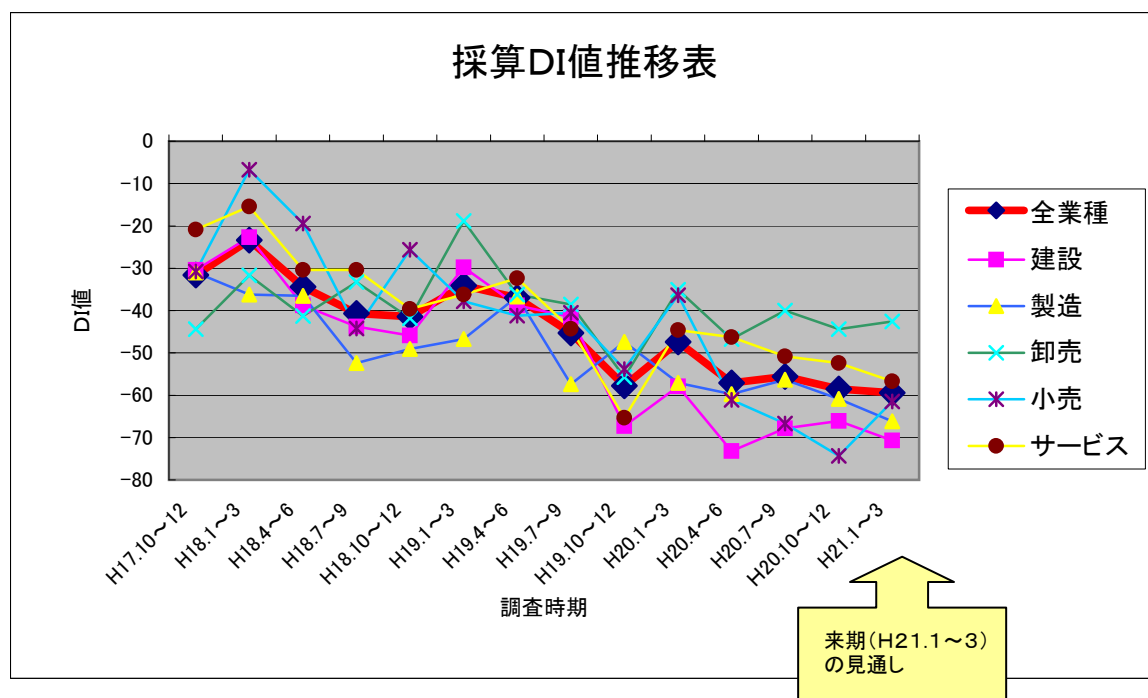
## 売上DI値推移表



今期(H20. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は41社(前期比20社減)、「減少した」と回答した企業は196社(前期比46社増)、「横ばいである」と答えた企業は46社(前期比21社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに拡大して▲54. 8となり、前期比で22. 8ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲84. 8(前期比34P悪化)、製造業▲50. 7(前期比31. 9P悪化)、卸売業▲45. 0(前期比26. 8P好転)、小売業▲66. 7(前期比2. 8P悪化)、サービス業▲50. 0(前期比25. 8P悪化)となった。

## 採算DI値推移表

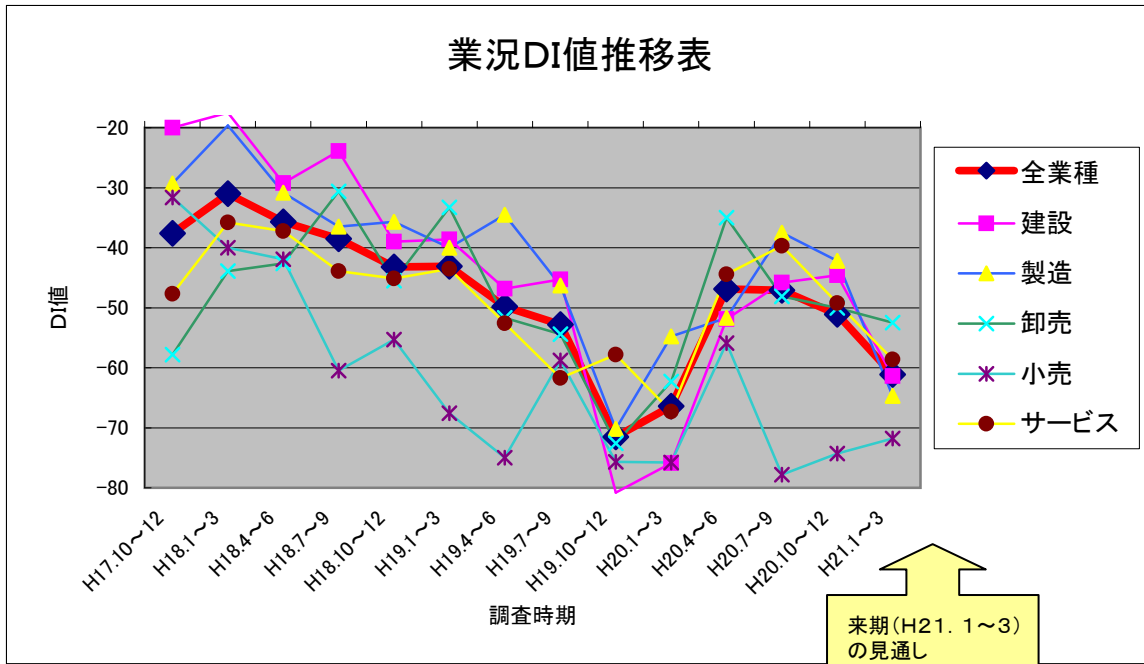


今期(H20. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前期比3社減)、「悪化した」と回答した企業は192社(前期比12社増)、「横ばいである」と答えた企業は72社(前期比2社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期ぶりに拡大して▲59. 4となり、前期比で3. 8ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲70. 7(前期比2. 9P悪化)、製造業▲66. 2(前期比9. 9P悪化)、卸売業▲42. 6(前期比2. 6P悪化)、小売業▲61. 5(前期比5. 2P好転)、サービス業▲56. 7(前期比5. 9P悪化)となった。

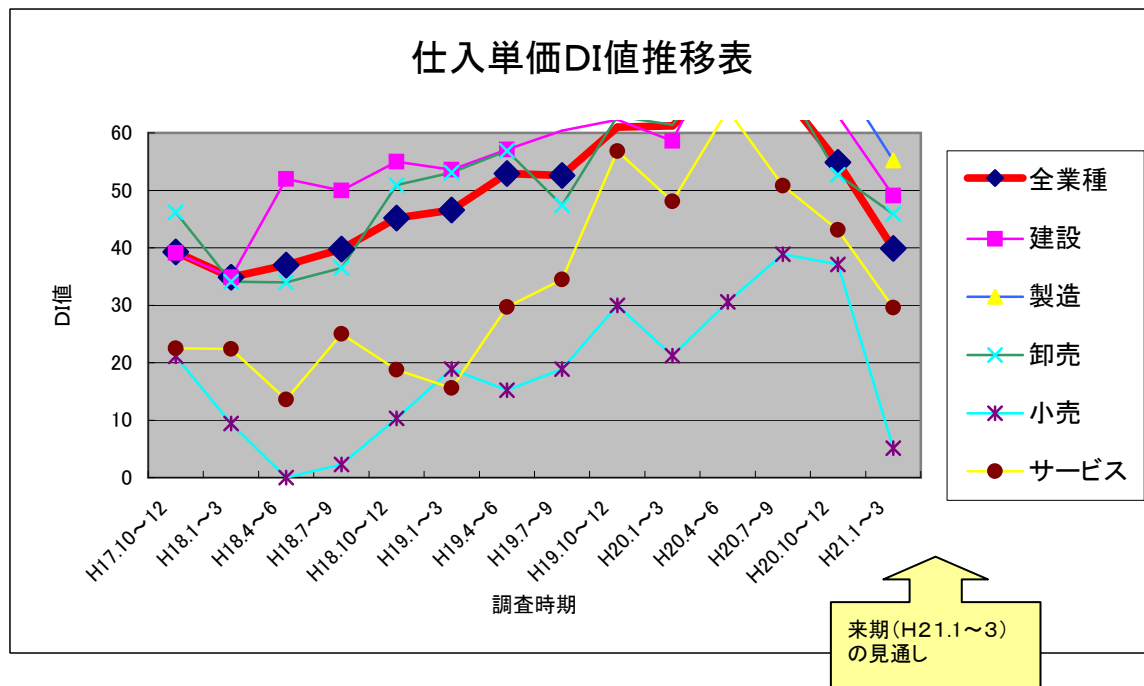
来期(H21. 1~3)の見通しでは全業種DI値は▲63. 4と、4ポイント悪化する見込み。

### 業況DI値推移表



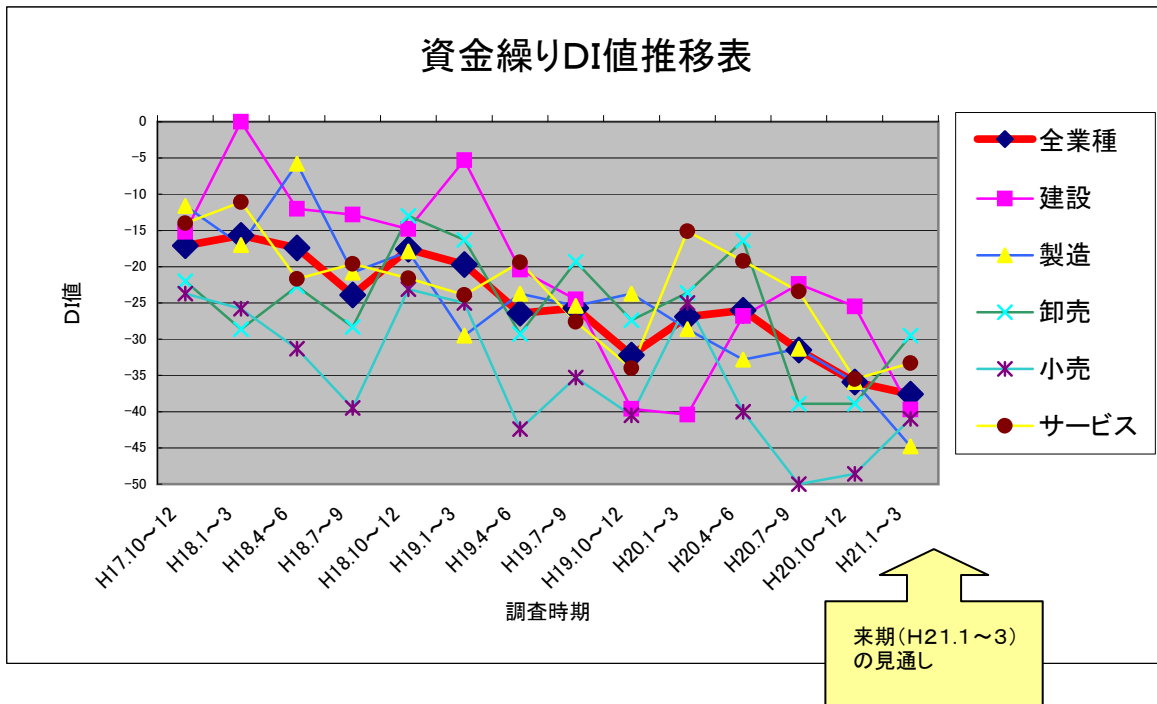
今期(H20. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は10社(前期比9社減)、「悪化した」と回答した企業は183社(前期比34社増)、「横ばいである」と答えた企業は90社(前期比18社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は二期連続で拡大して▲61. 1となり、前期比で14ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業▲61. 4(前期比15. 6P悪化)、製造業▲64. 7(前期比27. 2P悪化)、卸売業▲52. 5(前期比4. 4P悪化)、小売業▲71. 8(前期比6P好転)、サービス業▲58. 6(前期比18. 9P悪化)となった。来期(H21. 1~3)の見通しでは全業種DI値は▲63. 9と、2. 8ポイント悪化する見込み。

### 仕入単価DI値推移表



今期(H20. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は152社(前期比42社減)、「低下した」と回答した企業は41社(前期比30増)、「横ばいである」と答えた企業は85社(前期比17増)であった。DI値を見ると、2期連続で縮小して39. 9となり、前期比で27. 1ポイント好転した。業種別のDI値では、建設業49. 1(前期比28. 5P好転)、製造業55. 2(前期比31P好転)、卸売業45. 9(前期比23. 2P好転)、小売業5. 1(前期比33. 8P好転)、サービス業29. 6(前期比21. 2P好転)となった。来期(H21. 1~3)の見通しでは全業種DI値は17. 9と、22ポイント好転する見込み。

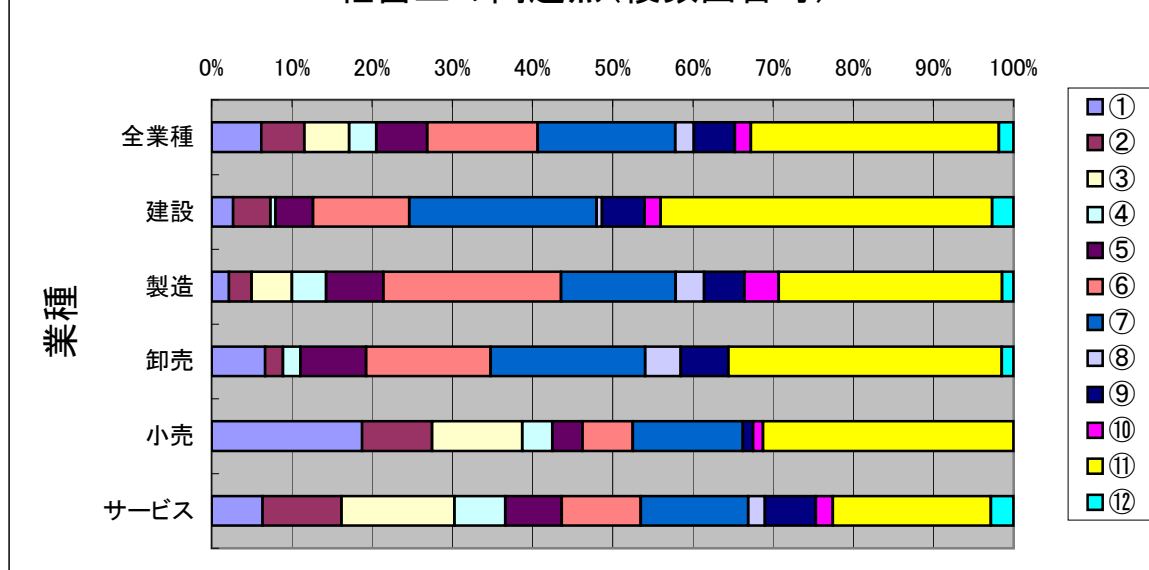
## 資金繰りDI値推移表



今期(H20. 10~12)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は8社(前期比1社減)、「悪化した」と回答した企業は114社(前期比18社増)、「横ばいである」と答えた企業は160社(前期比11社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して▲37.6となり、前期比で6.1ポイント悪化した。

業種別のDI値では、建設業▲39.7(前期比17.3P悪化)、製造業▲44.8(前期比13.5P悪化)、卸売業▲29.5(前期比9.4P好転)、小売業▲41.0(前期比9P好転)、サービス業▲33.3(前期比9.9P悪化)となった。

## 経営上の問題点(複数回答可)



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他  
 今期(H20. 7~9)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(22. 8%)」「需要の停滞(22. 5%)」を指摘する声が多く寄せられている。

特に、建設業での「需要の停滞(32. 4%)」、製造業の「仕入単価の上昇(36. 5%)」、卸売業の「需要の停滞(28. 9%)」、小売業の「需要の停滞(21. 6%)」、サービス業の「仕入単価の上昇(16. 4%)」に意見が集中した。

### <事業所から寄せられた主なコメント>

受注額の減少と材料価格の上昇により業況が悪化している。(一般土木建築工事業)  
 引き合いは現状維持であるが、受注額は増加している。(その他の職別工事業)  
 官公工事の入札価格等の取引条件が悪化している。(電器工事業)  
 市場の閉塞感が一段と増しており、事業の再構築も検討していかなければならない。(一般土木建築工事業)  
 景気不況等のマスコミ報道で民間の設備投資が進まず、個人の住宅の建設にも影響している。(建築工事業)  
 自動車産業は、すそ野が広いだけに影響が多方面に及んでいる。(その他の電器機器器具製造業)  
 原材料価格が高止まりしているため、需要の低迷が続いている。(水産食料品製造業)  
 採算が好転したため、来期は生産設備の投資を検討している。(精穀・製粉業)  
 大企業の進出により中小企業を取り巻く環境が悪化してきている。(鋼材製造業)  
 公共事業が減少し売上が伸び悩んでいる。(非鉄金属素形材製造業)  
 今期は売上額、売上単価ともに増加したため黒字の見込である。(化学製品卸売業)  
 今後は従業員の質(技能面・意識面・危機感)の向上が重要。(鉱物・金属材料卸売業)  
 従業員が不足しているが、業況が悪化しているため雇用が困難(食料・飲料卸売業)  
 経費の上昇とともに売上が減少し採算が悪化している。(他に分類されない卸売業)  
 大型店の進出により購買力が他地域へ流出している(酒小売業)  
 価格競争が激化し、個人店では価格の対応が難しい。(機械器具小売業)  
 都心部では駐車場の確保が難しい。(スポーツ用品小売業)  
 前期に比べ売上は増加したが需要は停滞している。(他に分類されない小売業)  
 常連客の来店頻度が少なくなってきた。(理容業)  
 採算、資金繰りともに好転し、来期も好転する見込である。(物品賃貸業)  
 需要が停滞し資金繰りが悪化している。(その他物品賃貸業)  
 燃料費は以前に比べかなり落ち着いてきているが、材料価格は高止まりしている。(クリーニング業)  
 中心市街地の集客力が低下してきており、業界の価格競争が激化している。(駐車場業)